



社長挨拶

コロナワクチン接種について

皆さん毎日の作業お疲れ様です。
梅雨は明けましたが 7 月も引き続きコロナ禍の状況が続き、8 月まで緊急事態宣言・まん延防止対策期間が続きます。そんな中でも、オリンピック対応や日々の業務は続いて参ります。
各自治体よりコロナワクチン接種の案内が会社の大半の方へ回っております。前述の通り私達は、世の中のライフラインとして継続的に仕事を行わなければなりませんので、コロナ禍では予防を継続することを基本にワクチン接種を推奨いたします。個人の体質等のことで接種を受けない方も受け入れつつ予防活動を推進していきますのでご協力ください。また、ワクチン接種には個人差がありますが、副反応が起こるリスクがありますので、事業所内でスケジュール調整を行い接種を行ってください。エッセンシャルワーカーとして社会の一翼を担う業務でありますので、皆さんが健康でフル活動ができることをお客様や社会からも期待されてますので、そのことを忘れずに引き続き、コロナ・熱中症等の予防には一層のご協力をお願い致します。また、ご家族の皆様におかれましても、家庭内感染が感染原因の第一位にあげられておりますので、コロナ予防につきましては一層のご協力を賜りたいと存じます。
引き続き宜しくお願い申し上げます。

第二四半期突入！目標の再確認を…

会社の事業計画も第二四半期に入り、前半も残り 8 月と 9 月を残すところです。特に今期は前半の上期に集中して生産性を上げる、大きなマイナスを出していた現場は最小限に抑えることからプラスに転じるように活動することとしています。
さらに、計画必達で下期上方修正できるように活動することも目標にしております。
全体で目標の再確認、第一四半期の反省を改善し、好調な活動はさらに進捗させるように事業部長・所長・事業所役職者の皆さんにはお願いしております。
前半の折り返しの際には、この目標を達成させられるよう皆さんのご協力をお願い致します。
おわりに、今年の夏もコロナ・熱中症の予防対策の両方を行わなければなりません。作業される皆様には大変ご負担をお掛け致しますが、体調管理には例年培ったことを更に進化させ予防と共に、作業がしやすい環境への提案を試みることもお願い致します。コロナ禍はまだ続くことが予想されておりますので、今だけの我慢ではなく、インフルエンザ等のように今後も付き合っていくスタンスと考えを変えて、予防が出来、作業もしやすいことを通年考えていくことをお願い致します。

代表取締役 清水 英次



ワクチン接種後の 副反応にどう対応するか…

新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでおり、1回目の接種が終わった方、始まる方というしやるかと思えます。新型コロナウイルスのワクチン接種は、感染から自分を守るのに役立ちます。（発症予防効果は約95%と報告）ただ、接種後に免疫が作られていく兆候として、いくつかの副反応が生じることがあります。多くは数日で解消しますが、つらいとき、どうしたらいいのでしょうか。

1 接種した部位が痛い場合

冷たい清潔なタオルで痛い部分を冷やすほか、痛い方の腕を動かすことで、痛みが和らぐ場合があるそうです

2 疲労感や頭痛、発熱等の場合

休息を十分にとり、解熱鎮痛剤を服用するのも一つの方法です。副反応で発熱した際、解熱鎮痛剤をのむ以外に、水分を十分に補給し、ゆったりした服装をすることが、不快感を和らげるのに役立ちます。



副反応がより強く出る傾向のある二回目接種の当日や翌日は、できるだけ予定を入れずに、もし発熱や頭痛がして体調がすぐれなくても無理をせず休息がとれるよう、スケジュール調整しておくといでしょう。

接種後の発熱が副反応で起きているのか、新型コロナウイルス感染症なのかを見分けるには、発熱以外にどのような症状があるのかが手がかりになります。

のどの痛みやせき、息切れ、味覚や嗅覚の異常は、通常はワクチンの副反応としては起こりません。こういった、症状があつたり、体調の異変を強く感じたりした場合には、医療機関を受診してください。発熱も含めた副反応の症状について、医療機関を受診した方がいのかどうか迷った場合は各都道府県に、副反応の相談にのつくれるコールセンターが設置されています。

本格的に始まった新型コロナウイルスのワクチン接種。コロナワクチンの副反応はまだわかっていないことが多いので、不安になる方も多いかもしれません。今わかつている情報をしっかりと確認して、事前準備と対策を講じていただければと思います

38.0℃以上の熱が出た時は全力対応

副反応への神対策は当たり前の“3選”

一番大事



対策1

水分を多めに摂取

経口補水液がオススメ。500mlに砂糖大さじ2。塩ひとつまみ+レモン汁

息を吐く



対策2

ゆっくり深呼吸

息を長く吐いて、古い空気を全部出す。新しい空気がたくさん入り薬になる。

適度に



対策3

体をストレッチ

身体が疲れない程度に体をほぐす。体が硬くなると、眠りにくい。